

本日の学び：「しかし、勇気を出しなさい」 テキスト：ヨハネ16章25-33節

【理解の手がかりとして】

本課の箇所は「告別説教」の締めくくりである。「これらのことを、たとえを用いて話してきた」（16:25）の「これらのこと」とは、13:31以降からの一連の説教そのものを指しており、そしてそれらが「たとえ（謎／隠された形）」で語られたことをイエス様はお話になる。

しかし「はっきり父について知らせる時」（16:25）、「その日」（16:26）の到来によって、弟子たちはその意味をはっきりと悟るようになる、とも。「その日」とは聖霊の賦与日（ペンテコステ）のことである。

聖霊が弟子たちに臨むと、彼らはイエス様の「名によって」（16:26a）願う。イエス様の名によって願うとは、まさにイエス様と一心同体のように祈り生きるということであろう。「わたし（地上のイエス）があなたがたのために父に願ってあげる、とは（もはや）言わない」（16:26b）とも言われる。「その日」（聖霊の賦与）以降、弟子たちは聖霊によって父なる神との関係が確かにされるからである。

信仰とは、神との愛の結びである。神の愛を知り、神に愛を返す、これが信仰することである。そしてその愛の仲介者としてイエス様は来られ、父なる神と人間（弟子たち／私たち）を結ばれる。この仲介者（道）なるイエス様を信じるか否か、それが父なる神との愛の交わりの復権の分かれ目である。

そして29-30節で弟子たちが応答する。彼らは「今、分かりました」「わたしたちは信じます」と言う。イエス様の鬼気迫る雰囲気、そう言わずにはおれない、と感じたのかもしれない。ある意味で、それは弟子たちの誠実であり、精一杯の信仰告白であつたろう。

しかしイエス様は、彼らの無理解、弱さをもすべて見抜いておられる。「今ようやく、信じるようになったのか」（16:31）との言葉は、何とも物悲しい表現である。そして32節で裏切り予告をなさる。イエス様を「知らない」と言うのはペトロだけではない。弟子たち皆、イエス様を見捨てて逃げ去るのである。「ひとりきりにする時」（16:32）という表現が、何とも痛ましい。

しかしイエス様は決して「ひとりきり」ではないことをご存知であつた。「父が、共にいてくださる」（16:32）、これこそイエス様の「御子」としての実存理解、そのものである。

イエス様は、後（聖霊賦与後）に弟子たち（教会）が大いなる苦難（迫害）に遭うことを予想しておられる。しかしその只中でも決して「ひとりきり」ではなく「父が、共にいてくださる」ことを確信

し「平和を得る」(16:33)ように、と言葉を遺された。「平和」とは、その苦難が無くなることではなく、その苦難の中に父が共におられるという確信(平安)である。そしてそれが「勇気」(16:33)の源であり、「世に勝つ」(同)力である。

「あなたがたは世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」——告別説教の総まとめがこれである。そしてこれこそイエス様が弟子たちに残されたいメッセージである。弟子たちの無理解、弱さ、つまり、裏切り、それらを全てご存知の上で、だからこそ言葉を尽くして彼らを励まそうとされている、そんな師匠としてのイエス様の思いが凝縮している最後のメッセージである。

「イエス様が『あなたがたには世で苦難がある』(16:33)と言われるように、弟子たちには、そしてこの私たちには、命の危機と言いますか、様々な試練が襲いかかってくる可能性がありますけれども、しかしそのいずれも、今申し上げた『平安・平和』を奪い取ることは出来ないのです。なぜなら、『道』と信じるイエス様こそが、最も困難な苦難である十字架をくぐられ、復活をもって勝利されたお方だからです。ですからその道は、イエス様を信じる道は、世のあらゆる困難を退ける勝利の道なのです。そしてその道は父なる神様と決して切り離されない場所に、永遠の命へと通じる道なのです。ローマ書においてパウロはこう述べています。『わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです』(8:37-39)と。・・・私たちもまたここから新しい日々に向いて参ります。そこでは様々な事があるでしょう。けれども、私たちは護られています。主の平和・平安をいただいています。何ものもそれを奪い取ることはできません。ですから私たちは勇気を出すことができるのです。これらのことを話したのは、私たちがイエス様によって平和を得るためです。私たちには世で苦難があります。しかし、勇気を出しましょう。イエス様は既に世に勝っておられるからです。」(2024年2月18日相模中央教会主日礼拝宣教より)

『聖書教育』より

「このイエスの言葉は、弟子たちだけではなく、私たちにも語ります。たとえこの世に苦難があろうとも、私たちはひとりではありません。神が共におられるのです。だから、勇気を出して信仰者として生きることができる。イエスに遣わされて豊かな実を結ぶことができる。イエスと同じようにこの世に勝つのです。今もこのイエスの言葉は、苦難に直面し、失意に嘆く人に、力と平安を与え、その人を支え、この世へと押し出しています。」(聖書の学び～3.わたしは既に世に勝っている)